

⑥2 常磐自動車道（山元IC～岩沼IC間）4車線化事業

受賞機関 東日本高速道路株式会社 東北支社 仙台工事事務所

キーワード 短期完成、プレキャストC-BOX、一括架設、昼夜間施工

全建賞審査委員会の評価ポイント

常磐自動車道（山元IC～岩沼IC間）約14kmにおける4車線化事業。復興創生期間内の完成目標として、事業化から5年間の完成を目指し、複数の課題がある中、短期間の工期にて無事完成させた点が評価された。

1. はじめに

常磐自動車道は起点を東京都、終点を宮城県とする高速道路である。このうち、いわき中央IC～岩沼IC間約128kmの区間は暫定2車線区間であり、宮城県内では山元IC～岩沼IC間約14kmが平成28年6月8日に4車線化事業の事業許可がなされ、復興創生期間内（令和2年度内）を完成目標として事業に着手、令和3年3月6日に完成した。

2. 事業の概要

事業化から5年間で完成させなければならない条件の中、様々な課題を克服しなければならず、まず施工上必要な工事用道路の整備は各自治体と速やかに協議を実施、同時に河川・鉄道・その他電気水道等関係機関との協議を速やかに終え、そのうえで以下の課題について対応した。

約70万㎡の盛土は事業許可後速やかに土場の確保を行った。盛土にはI期線への影響を考慮した軟弱地盤対策が必要であったが詳細な調査及び有識者との勉強会を開催しながら観測施工にて完成させた。

横断構造物約90基の延伸が必要であったため一部プレキャストC-BOXを採用、一般道を横断する橋梁架設については多軸台車を使用した一括架設を採用し、通行止め期間の短縮を図り周辺の地元の方々への影響を最小限に留めた。



完成式典の様子、亶理町立長瀬小学校にて

一級河川阿武隈川を横過する阿武隈大橋（橋長528m）の施工においては、協議では非出水期4期のところ、施工方法の工夫により上部工施工と仮橋撤去を1非出水期内で完了し、3期で終えることができた。また、ケーソンを1非出水期内で終える必要があったため、4基分の設備を設置し昼夜間施工により完成させた。

舗装においては仮設アスファルトプラントを建設し、そこから製造・運搬することにより、同じく復興創生期間内供用を目指す嵩上げ道路等他事業との重複を避け、供用させることができた。



4車線化後の阿武隈大橋

3. 事業の成果

常磐自動車道は、関東地方と東北地方南部の太平洋沿いの主要都市を結び、産業・経済・文化の発展、物流の効率化、医療の高度化、地域連携の形成に不可欠な道路であり、国道6号や東北道等の交通分散機能、事故・災害時におけるリダンダンシー機能を有するものである。

4車線化によって中央分離帯及び追越車線が整備され、速度低下の改善、事故・工事等に伴う通行止めの削減等、サービスが向上した。

工事中はホームページにて工事情報広報や小学生から大学生まで現場見学会を実施し、建設業への理解度向上、将来の担い手確保にも寄与した。

4. おわりに

本事業は周辺の地元の方々をはじめ、多くの関係機関の皆様にご支援いただき、事業許可から4年10か月で完成することができた。この誌面をお借りして改めて心より深く感謝申し上げます。

賛助会員 大成建設(株)、(株)不動テトラ、(株)横河ブリッジ、アイサワ工業(株)東北支店、(株)横河NSエンジニアリング、(株)佐藤渡辺東北支店、三井住建道路(株)、東北電化工業(株)